CRT 栃木放送『開倫塾の時間』	2023 年 2 月 18 日(土)放送内容資料

2023 年 2 月 14 日(火)9:30 ～ CRT スタジオで収録

NHK大河ドラマに合わせた「読書」で、「歴史の理解」を深めるには

開倫塾
塾長　林明夫

1．読書による「歴史の理解」を深める方法にはいろいろなやり方があります。私は、NHK 大河ドラマの大ファンで、大河ドラマに合わせていろいろな本を読み、大河ドラマで「歴史の理解」を深めています。

2．例えば、一昨年(2021 年)の NHK 大河ドラマ「晴天を衝け」では、「渋沢栄一」の一生が取りあげられました。そこで、番組に合わせ渋沢栄一著「雨夜譚」と幸田露伴著「渋沢栄一伝」(いずれも岩波文庫)を読み、幕末から明治維新にかけての日本の歴史の「理解」を深めることができました。特に徳川慶喜や、明治初期の産業政策についての「理解」を深めることができました。

3．昨年(2022 年)の NHK 大河ドラマは「鎌倉殿の 13 人」でした。そこで、以前から読みたかった鎌倉時代の歴史を記した「吾妻鏡(あづまかがみ)」を、1 年かけて、角川ソフィア文庫のビギナーズ・クラシック日本の古典と、岩田慎平著「北条義時」中央公論新社も、中公新書を番組に合わせて読み続けました。おかげさまで、鎌倉時代の前半の理解を深めることができました。

4．今年(2023 年)の NHK 大河ドラマは「どうする家康」なので、山岡荘八著の歴史小説「徳川家康」を読もうかと思いましたが、余りにも冊数が多いので、原作山岡荘八で、漫画家横山光輝作のマンガ「徳川家康」全 8 巻 講談社漫画文庫を読むことを決意。番組に合わせて全 8 巻のマンガを行きつ戻りつしながら読んでいます。横山光輝さんは、子どものころに大好きだった「鉄人 28 号」や中国の歴史書「三国志」のマンガ化・コミック化の作者で、私もかなりのファンでしたので、この徳川家康もとてもなじみやすく思われました。横山さんのマンガで「徳川家康」を読み終えたら、4 月くらいから山岡荘八の原作にも挑戦し、大河ドラマの「理解」を深めようかなと思います。

5．来年(2024 年)の NHK 大河ドラマは、平安文学の大傑作、源式部作の「源氏物語」ということです。中学生・高校生のころから一度は「源氏物語」を全部読み通したいと思っていましたので、今年 1 年間と、来年番組が終わるまで合わせて 2 年間で、現代語訳の「源氏物語」と古文の「源氏物語」を同時並行して読みたいなと考えています。現代語訳は「与謝野晶子」訳と「谷崎潤一郎」訳、古文は岩波文庫「源氏物語」の最新版全 9 冊を選び、先月から少しずつ読み始めました。

6．このように、NHK 大河ドラマに合わせて、1 ～ 2 年、2 ～ 3 年かけてマンガも含め関係する本を読む。このような読書もあってよいのではと考えます。

7．(1)日本の多くの新聞には、「新聞小説」が毎日掲載されています。この新聞小説に合わせて、関連する本を読むのも興味深いと考えます。

(2)何年か前に、日本経済新聞では、伊集院静著「ミチクサ先生」と題する夏目漱石の伝記が連載されていました。私は、夏目漱石とその友人正岡子規が大好きでしたので、連載中に合わせ 2 人の作品をできるだけ多く読み、多くの新しい発見をした覚えがあります。

(3)現在、日本経済新聞は遣唐使「阿倍仲麻呂」が「ふりさけ見れば」という題で取りあげられています。この題は「百人一首」の仲麻呂作「天の原　ふりさけ見れば　春日なる　三笠の山に　出(い)でし月かも」からとられています。今、最終章に入っています。新聞小説といっしょに、森公章著「阿倍仲麻呂(人物叢書)」吉川弘文館を読んでいますが、とても面白く、奈良時代や中国の唐の時代が身近に感じられます。遣唐使の果たした日本という国への役割の大きさに感銘をうけています。

8．NHK 大河ドラマや新聞の連載小説に合わせて読む本を 1 ～ 2 冊決め、1 ～ 2 年かけて行きつ戻りつしながら読み進め、歴史の理解、文学作品の理解を深める。このような「読書」も面白いと思います。是非、ご挑戦ください。

2023 年 2 月 15 日